

「シカゴの日系人史」：イマージョン・ラーニングの再検討とその課題：学際的言語教育の可能性

林 菜摘(ノックス大学)

要旨

この研究は、COVID-19 禍における留学プログラムの中止や予算の制約といった課題に対応するために、米国内での地域体験学習としての没入型学習とデジタル人文学を活用し、多様性・公平性・包括性(DEI) を考慮して開発された学際的なコースを再検討するものである。2023 年夏に実施された「シカゴの日系人史」プログラムは、オンラインやキャンパスでの専門家による講義、シカゴでの現地訪問と地域交流、そしてウェブサイト作成の 3 つの要素で構成された。このプログラムは、日系アメリカ人の経験を通じて、学習者に人種的迫害や社会的不正の理解を深めさせ、社会正義についての積極的な思考を促進した。最終プロジェクトでは、歴史保存や地域社会への貢献を重視したが、課題も見られた。さらにこのプログラムが、ピアラーニングやレベルに応じたタスクなどを取り入れ日本語学習者へのブリッジ・コースとして機能する可能性を探った。

キーワード：日系人史, コミュニティベース, イマージョン・ラーニング, 異文化理解, 地域貢献

1 はじめに

ノックス大学は中西部イリノイ州の小都市に位置する私立のリベラルアーツカレッジである。学生の体験的な学びを通じた教育を奨励し、社会の多様性を理解し、他者を尊重する人間を育むことを目指している。日本語プログラムはアジア研究プログラムの一つで、副専攻として取ることの出来る、初級と中級の二年間のプログラムである。筆者が着任した 2022 年は、コロナ禍の影響でプログラムが縮小された状況であった。提携校の留学プログラムも中止になったり、渡航制限で留学予定を取り止める学生もいたり、ノックスで日本語日本文化を学び続けたいという学生の希望を叶えるのが難しい状況であった。そこで、日本語プログラムの再拡大の一つのきっかけとなるべく、これから紹介する「シカゴの日系人史」プログラムを実施した。日本に行く事なく日本を学ぶために、フィジカルとデジタル、二つの没入型体験学習を組み合わせるプログラムを作り上げた。このプログラム実施において念頭に置いたのは、様々な分野で学んでいる学生の興味を惹く、多様性、公平性、包括性(DEI) を考慮した学際的な学びにすること、アメリカ国内で日本を体験学習できること、デジタル人文学を活用した最終プロジェクトを作ることである。本稿では、シカゴ日系人コミュニティを活用した没入型体験学習と、プログラム終了後も地域社会に貢献できるウェブサイトを作るという最終プロジェクトを中心に再検討し、その学際的言語教育の可能性を探る。

2 夏期イマージョンプログラム「シカゴの日系人史」概要

没入型研究体験(immersive research experience) は本校の教育の根幹をなすものである。夏学期には、イマージョン・サマー・タームと呼ばれる、6週間のプロジェクトや、4週間の異文化学習プログラムが開催される。本稿では、体験や活動を通して学ぶことに重点を置いたアプローチである体験学習をより没入的な環境で行うことを「没入型体験学習」と定義する。本プログラムは、4週間の異文化学習プログラムの一つとして 2023 年に実施された。参加対象者は日本語学習者に限定せず広く全学生を対象とした。本校は総学生数が 1001 名と小規模で、4 名からプログラムは催行された。参加者は 5 名で、アジア系アメリカ人 1 名、留学生 4 名の内 3 名が日本人、1 名が中央アジアの留学生であった(表 1)。プログラムは日本語教師によって英語で行

われた。一、二週目はキャンパス、三週目はシカゴでの体験学習、そして四週目はキャンパスに戻り、アーバナ・シャンペーンでの日系人展覧会訪問を含め、最終プロジェクトのウェブサイト作成に取り組んだ。

参加者		
アジア系アメリカ人		1
留学生	中央アジア	1
	日本	3
合計		5

ノックス大学総学生数1001名（2023年秋学期）

表 1 参加者

2.1 プログラムの動機・目的

本プログラム設定の主な動機・目的は次の4点であった。

(i) 学際研究としてのプログラム

コロナ禍を機に縮小したアジア研究、そして日本語プログラムの強化のため、その一環として従来行われている夏のイマージョンプログラムに日本関連のプログラムを実施することになった。参加者は日本語プログラムに限定せず、広く全学から参加を募るため、英語で実施することになった。移民史の文脈で日本を学び、多くの日本語の資料や日本語話者にも触れるプログラムであるので、これらの学びを通じて日本に興味を持ち、日本語プログラムを取ることを期待しての実施であった。本プログラムに関連する分野は、日本研究、日本語、移民史、歴史、宗教哲学、社会学、政治学、デジタルヒューマニティーなどである。

(ii) 多様性理解：コロナ禍で起きたアジア人蔑視と日系人史

コロナ禍、アジア人蔑視が起こり、全米各地でアジア人が被害を受ける事件が多発した。例えば、2021年3月にアトランタのスパでアジア系女性6人を含む8人が殺害された銃撃事件である(図1)。これは多様性を認めない寛容性を失った社会や、他者への無理解から起こるものと考えられた。2022年から2023年にかけて行われたピュー・リサーチセンターの調査によると「米国アジア人の約三分の一は、コロナ禍以降に脅迫や攻撃を受けた他のアジア人を知っている。」とある(表2)。その中で改めて注目されたのが日系人史である。日系人は第二次世界大戦中、迫害を受け強制収容された(大統領令9066号)。1988年ようやく、正式な謝罪と補償が認められた(1988年市民自由法)。にも関わらず、今また人種や国籍による蔑視が起きている。そこで、かつて日系人に起こったことに目を向け、その歴史を学ぶことで、社会問題の解決策を探って行こうという機運が高まった(図2)。2021年7月には「アジア系アメリカ人コミュニティ歴史教育の公平性 (TEAACH) 法」が署名され、イリノイ州はすべての公立学校にアジア系アメリカ人の歴史をカリキュラムの一部とすることを義務づける最初の州となった(The TEAACH ACT)。本プログラムはこの流れに沿うもので、シカゴの日系人史を学ぶことで、私達自身の生き方や現代社会の在り方を学生達に批判的に考えさせることにした。

2021年アトランタのスパでアジア系女性6人を含む8人が殺害された

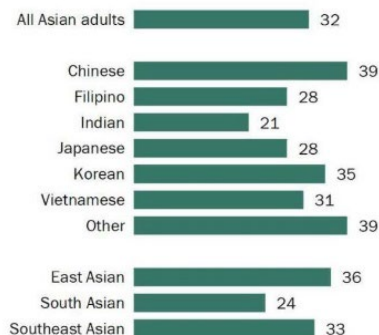
「襲撃事件増加の中、銃撃事件後のアジア系コミュニティは苛立ちを隠せない」



図 1 8 killed in shootings at Atlanta area spas

About one-third of U.S. Asians know another Asian person who's been threatened or attacked since COVID-19

% of Asian adults who say they personally know an Asian person in the U.S. who has been threatened or attacked because of their race or ethnicity since the COVID-19 pandemic began in 2020



Note: Ethnic origin groups include those who self-identify with one Asian ethnicity only. Regional origin groups include those who identify with ethnic origins that belong to one Asian region only. Share of respondents who didn't offer an answer or provided other answers not shown.

Source: Survey of Asian American adults conducted July 5, 2022-Jan. 27, 2023.

"Discrimination Experiences Shape Most Asian Americans' Lives"

PEW RESEARCH CENTER

「米国アジア人の約三分の一は、コロナ禍以降に脅迫や攻撃を受けた他のアジア人を知っている。」

表 2 アジア系アメリカ人への調査

「憎しみは学ぶものである」：アメリカにおける反アジア人暴力の歴史をたどる



図 2 アメリカにおける反アジア人暴力の歴史をたどるニュース

(iii)国内の「日本」で没入型体験学習：日系人社会でのイマージョンプログラム

コロナ禍で中止となった留学の代替として急速に必要性が高まったのが、アメリカ国内での日本体験である。アメリカで日本を体験出来る地域と言えば、日本人・日系人の多く住む西海岸や東海岸の大都市部が真っ先に頭に浮かぶだろう。中西部の大都市シカゴは、実は日本との関わりも長く、戦後の強制収容所から解放された日系人が多く移り住み全米有数の日本人・日系人人口となったこともある都市なのである。現在も日系団体が多くあり、歴史的資料を保管しており、活発な歴史保存活動を行っている。本校はシカゴから車で3時間ほど離れた地域に位置しており、シカゴは学生達にも親しみのある街である。シカゴの日本人・日系人の歴史を学ぶことは、自分たちの生きる地域社会を知ることでもある。歴史をどこか遠くの地で起きた他人事としてではなく、自分たちに繋がる出来事として捉えてもらうことが、大きな狙いの一つとなった。

(iv)デジタルスキルで地域、社会貢献

参加者が学んだ研究手法やデジタルスキルを活用し、その成果物としてウェブサイトを作成することが最終プロジェクトとなった。本プログラムを立ち上げる過程で、シカゴの日系人コミュニティの自分たちの歴史を知って欲しいという強い思いを知り、地域社会へどんな貢献が出来るかということをより反映したのが最終プロジェクトのウェブサイトである。ウェブサイトはシカゴの日系人史を学ぶための入口の役目を持つサイトの一つとして作成されることになった。

以上から、シラバスのプログラムの学習目標は以下の四点になった。

プログラム学習目標

- ・デジタル資料や実物資料、専門家による講義、現地体験、調査などを通して、日系人を取り巻く歴史的、体験的、文化的背景を再構築し、研究する。
- ・現代は歴史に根ざしており、歴史を継承することの重要性を理解する。また、自分自身や家族の歴史的・社会的状況を振り返ることができるようになる。
- ・収集した一次資料や二次資料、現地調査記録、ゲスト講演などから、資料収集やキュレーションの方法、自分のプロジェクトの作り方を実践的に学ぶ。
- ・それらを最終的にデジタルアーカイブにまとめる方法を実践を通して学ぶ。

2.2 プログラムのトピックとスケジュール

プログラムのトピック、内容、及びスケジュールの概要を表3に示す。

週	主なトピックと内容
一週目	キャンパスでの準備学習 ：米国日系史概説（初期移民、排日運動、大統領令9066号、第二次世界大戦と強制収容、忠誠心検査、労働、信仰、戦後と転住など）、ゲスト講師による講義、研究手法・デジタルスキルの学習
二週目	キャンパスでの事前学習 ：シカゴの日系史概説（戦前、戦中、戦後のシカゴ日系史-初期移民、教育、万国博覧会、転住、地域社会、労働、Day of Remembranceなど）、ゲスト講義、訪問先事前学習、研究手法・デジタルスキルの習得
三週目	シカゴ滞在による体験学習 ：アーカイブ見学、施設見学、地域社会との交流
四週目	最終プロジェクトの制作 ：ウェブサイト作成、発表、日系人イリノイ展覧会見学（ウェブサイトは2024年3月に仮オープン、4月正式オープン）

表3 主なトピックと内容

2.3 主教材と資料

オンラインリソースや書籍、映像資料などを使用した。学習の足掛かりとしてフィクションの映画や絵本、グラフィックノベルや小説を用いた。オンラインのドキュメンタリーフィルムなども鑑賞した。書籍は主に英語のものを使用した。参加者に日本人留学生もいたため、日本語訳のある書籍は英語版と日本語版の両方を使用した。書籍は課題図書とし、プログラム開始前に参加者が一冊から二冊選び、プログラム中に発表・討論させることで参加者全体の理解を促した。シカゴの日系人史については出版物が少なく、主にオンラインリソースとゲスト講師による講義で学んだ。表4参照。

プログラムで使われた主教材と資料	
書籍	They Called Us Enemy, Takei, G, Eisinger, J, Scott, S. (2019). 「＜敵＞と呼ばれても」 Enemy Child: the Story of Norman Mineta, a Boy Imprisoned in a Japanese American Internment Camp During World War II, Warren, A. (2021). 「十歳、ぼくは突然「敵」とよばれた 日系アメリカ人の政治家 ノーマン・ミネタ」 No-No Boy, Okada, J (1978) 「ノーノー・ボーイ」 Life After Manzanar, Lindquist, Heather C., Hirahara, N (2020) Clark and Division, Hirahara, N (2022) American Sutra- Story of Faith and Freedom in the Second World War, Williams, R (2020) Japanese Americans in Chicago, Murata, A. (2002)
映像	映画：Come See the Paradise(1990)「愛と哀しみの旅路」 ドキュメンタリー：A Vanished Dream: Wartime Story of My Japanese Grandfather (2020)
オンラインリソース	全米日系人博物館 Japanese American National Museum Densho (伝承)Encyclopedia ディスカバーニッケイ Discover Nikkei シカゴ定住者会 Japanese American Service Committee (JASC) レガシーセンター Legacy Center (Chicago) シカゴ日本人歴史協会 Chicago Japanese American Historical Society (CJAHS)

表4 プログラムで使われた主教材と資料

2.4 プログラム構成とカリキュラム

振り返りと概要把握、問題意識を常に持つことをプログラム構成に取り入れた。四週間の集中プログラムで、一日に摂取する情報量が通常の授業と比べると極端に多いので、一日の終わり、または課題ごとに、内容が理解出来ているか学習者同士で確認し合い、意見・感想を Learning Management System の Moodle 内のフォーラムに書き出し、まとめと感想をシェアするまでを一つのサイクルとした。全員の投稿を見ることが出来るので、ウェブサイト作成の際に必要な活動の振り返りを容易くした。表5に示されるタスク・作業を含みながら以下の指針を基に学習を進めた。

主な学習タスク・作業
Moodle(Learning Management System)のフォーラムへの投稿 ビデオの感想を投稿 課題図書の発表へのコメント投稿 ゲスト講義の要約と感想の投稿 課題図書の概要と背景の発表 Moodleにシカゴ滞在中のジャーナル投稿 訪問先・活動について概要、印象など毎日投稿 ウェブサイトの作成 プログラム最終日の最終プレゼンテーション

表5 主な学習タスク・作業

- ・ **日系人史内容理解**：日系人史内容理解においては、米国の日系人史の概要からシカゴの日系人史の詳細へと学ぶよう組み立てた。
- ・ **映像・書籍・オンラインリソース**：日系人史の理解を進めるために、史実を基にした映像作品(映画「愛と哀しみの旅路」やグラフィックノベル「敵と呼ばれても」、小説「ノー・ノー・ボーイ」「クラーク・アンド・ディビジョン」など物語性が高く、読みやすい・見やすいものから入った。2021年のドキュメンタリー作品「A Vanished Dream: Wartime Story of My Japanese Grandfather」では資料を辿りながら自分の日本の親族をさがす作者の旅路が描かれ、歴史資料の重要性と利用方法を学ぶことが出来た。そこから徐々に写真集、資料や学術書へと移行するようにした。オンラインリソースは小中学生の学習用の容易なものを始めに紹介し、シカゴの日系人については書籍も少ないことから、デジタルスキルの学習の一環として膨大な記事の中から目当ての記事を探し出させるなど、ウェブサイト作成時の作業のために活用させるなどした。
- ・ **発表する書籍の内容理解**：課題図書を各人が選び、それぞれが概要をまとめ、その背景も調べて発表し、それを基に参加者全員で話し合い、全員で内容と問題意識を共有した。
- ・ **講義の内容理解**：ゲスト講師による講義では、講師への質疑応答があり、その後は教室でディスカッションを行い、問題提起や解決策の提案などを共有した。その後は、フォーラムにまとめと感想を投稿させ、全員で共有した。
- ・ **事前学習と課外学習**：キャンパスでの事前学習をしてから現地に臨んだ。現地ではその場で各自メモを取り、一日の終わりに簡単なミーティングで意見感想をシェアし、毎日のコースジャーナルとしてまとめと感想をフォーラムに書き出させた。
- ・ **デジタルスキルの学習とウェブサイト作成**：最終プロジェクトとして、シカゴの日系人史のウェブサイトを作成した。Omeka（オメカ）と呼ばれる、デジタルコレクションを共有したり、オンライン展示を作成するためのオープンソース・Webパブリッシング・プラットフォームを使用した。ウェブサイトはプログラム最終日には完成しなかったが、最終日には振り返りと発表を行った。以降は各自で作業を行い、2024年3月、協力してくれた専門家や日系人コミュニティにコンテンツのチェックを依頼し修正を行い、四月に正式オープンした。

2.5.コミュニティでの没入型体験学習

シカゴは日本との関わりが長く、現在も多くの日系人団体や施設が活動している。西海岸のジャパントウンのような町はないが、日本人・日系人が多く暮らす地域は存在し、戦後徐々にその場所を南から北に移して来てはいるが、教会や仏教会などのネットワークでゆるやかに繋がっている。シカゴでは表6にある施設を訪問し歴史的資料の閲覧や日系人らと交流するなどの体験学習を行った。また、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で開催されていた「イリノイの日系人」展覧会を見学した。

この体験学習を可能にするため、プログラムの立ち上げ当初から、シカゴの日系人コミュニティの協力を仰いだ。まず、日系人史を扱う授業を行ったことのある教師や専門家にあたり、日系人団体を紹介してもらい、一つ一つにコンタクトを取った。特にデポール大学の近松暢子先生には、近松(2009)をはじめシカゴの日系人史を長く教えた経験から貴重な助言を頂いた。キャンパスでの事前学習のゲスト講師

陣はプログラム立ち上げ時に助言頂いた日系人団体の方々などをお願いした。このように、プログラム立ち上げの段階から、地域の方々の助言を仰ぐことは、地域の方々の要望を取り入れながらのプログラム作りを可能にする。地域社会での「日本」学習の環境を作るためには、一回限りの関係ではなく、地域社会との息の長い関係を作ることが大切である。そのためにも、何が必要とされているのかを聞き取りながらプログラムを作り上げて行くことが非常に重要である。このように、地域社会を巻き込んだプログラムは、共同体に生きる私達という存在を意識しながら学ぶことを可能にした。

現地学習
<p>シカゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカゴ美術館日本コレクションArt Institute of Chicago Japanese Collection:コロンビア世界博覧会鳳凰殿欄間 ・Garden of the Phoenix:コロンビア世界博覧会日本パビリオンから移築の庭園見学 ・シカゴ大学図書館University of Chicago Library:東アジアコレクション見学、スペシャルコレクション閲覧、シカゴ大学とマンハッタン計画と日本人・日系人学生について、日系人収容所経験者で歴史保存活動団体会長の講義 ・シカゴ植物園日本庭園見学Japanese Garden at Chicago Botanic Garden ・中西部仏教寺院Midwest Buddhist Temple:ガイドツアー、シカゴの日系人と信仰について ・The Buddhist Temple of Chicago(仏教寺院):ガイドツアー、強制収容所で作られた仏壇見学、日系人収容所経験者と交流 ・モントローズ墓地The Montrose Cemetery:ガイドツアー、一般墓地埋葬を拒否された日本人・日系人について ・シカゴ・レイクサイド教会Lakeside Church of Chicago:見学、資料閲覧、交流会、青少年カリフォルニア日系人史ツアー報告会参加、シカゴの日系人と信仰について ・オールド・ジャパントウン・ツアー:サウスサイド、拘留所、クラーク&ディビジョン、レイクビュー、日系人が食べたAktagawa ・シカゴ定住者会レガシーセンターJapanese American Service Committee (JASC) Legacy Center歴史と活動、老人施設、保存資料閲覧方法についてのワークショップ ・ミツワスーパーマーケットMitsuwa Japanese Supermarket:新日系移民の住むアーリントンハイツで買い物 <p>アーバナ・シャンペーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イリノイの日系人展Nikkeijin Illinois Exhibition at the University of Illinois at Urbana-Champaign:イリノイ大学アーバナシャンペーン校の日本人・日系人教授や学生についての展覧会、自身が日系人であるキュレーターによる解説・見学

表 6 現地体験学習

2.6.デジタルスキルの応用

このプログラムの重要な成果は、学生たちがデジタル技術を駆使して最終プロジェクトのウェブサイトを作成し、地域や社会に貢献したことである。学生たちが学んだことを実践できただけでなく、シカゴの日系人の歴史に関する永続的な資料となり、現代の教育におけるデジタル・コンピテンシーの重要性を浮き彫りにした。

このウェブサイトは、訪問者がシカゴの日系人の歴史を概観するための出発点となり、シカゴの日系人団体やその他のリソースへのウェブリンクを通じて、さらなる探求を促すようデザインされている。そして、参加者はプログラム参加中に興味を持ったトピックについてリサーチを行い、それをウェブサイトに掲載した。これにより、ウェブサイトを訪れた人が、プログラム参加者の学習体験を知ることができる。また、各参加者のプログラムについての振り返りもウェブサイトに掲載した。図3、表7参照。

デジタルスキルの応用 <https://japaneseamericanchicago.knoxabolitionlab.org/>



図 3 最終プロジェクトウェブサイト「シカゴの日系人史」

ウェブサイト：シカゴの日系人史	
トップページ- プロジェクトについて	日系人史地図／謝辞／クレジット／ 集合写真／土地への謝辞
- 年表+用語	
- 初期 - 岩倉使節団	
- コロンビア世界博覧会	
- 転住からコミュニティへ- 近隣地域	
	- 世代
	- 宗教コミュニティ
	- サード・カルチャー・キッズ
	- 巻末資料と推薦図書
- 信仰 - 仏教: シカゴの仏教寺院- 仏教: アメリカ化された仏教	
- キリスト教: シカゴ・レイクサイド教会と日系人	
- キリスト教: 強制収容所にて	
- 歴史の保存 - 日系アメリカ人団体リスト	
- 第二次世界大戦中の中西部2大学の方針- シカゴ大学	
	- ノックス大学
- ふりかえり	
- 参考文献	

表7 ウェブサイトの構成

2.7. プログラム評価

以下に本プログラムがどのように受け止められたか、フィードバックを中心に紹介する。プログラム終了後に、1) 参加者と、サポートしてくれた2) 日系人コミュニティや専門家の方々にアンケートを行った。

2.7.1. 学習者からの評価：

参加者へのポストサーベイでは、参加者5人中5人から回答を得た。以下、参加者のコメントを紹介する。（英語のコメントの日本語訳は拙訳）

セクション I-1 キャンパスでの事前学習について

「私たちは、日系アメリカ人の歴史だけでなく、その歴史を守るために活動している組織や調査方法についても学びました。このようなキャンパスでの学びが、シカゴでの旅行をより有意義なものにしてくれました。」

セクション II-2 現地体験学習（シカゴとアーバナ・シャンペーン）について(表8)

「日系アメリカ人の方々とお会いする機会がたくさんあり、彼らとの会話を通して、実際の個人的な話を聞くことができ、それを文献やその他の歴史的資料と結びつけることができたことをとても嬉しく思います。」

セクション III-3 集大成プロジェクトの総合評価(表9)

「オンライン・アーカイブの構築は、私たち学生にとっても、このプロジェクトを支援してくださった方々にとっても効果的な方法でした。アクセシビリティの面でも、日系アメリカ人の歴史について学びたい人にとっても有益だと思います。」

「ホームページを作るにあたって、先生が柔軟な対応をしてくれたことには感謝していますが、ホームページで取り上げるトピックについては、もっと話し合う必要があったと思います。特に私のパートに関しては、変更点が多く、日本に帰ってから調べ始めたものもあります。」

セクション IV プログラムの総合評価(表 10)

「現場での学習と現場以外での学習のバランスは良く、素晴らしい学習と研究の経験を得ることができました。ただ、集大成のプロジェクトにもっと時間があればよかったと思います。」

セクション V 本プログラムがあなたの学習、キャリア、視野、思考にどのような影響を与えたか、詳しく説明してください。

「このプログラムは、アジア諸国、歴史、文化の研究に対する私の情熱をさらに後押ししてくれました。特定のニッチなテーマやトピックを探究することができたことで、これからさらに探究してみたいニッチなトピックがたくさんあるように感じました。」

「日本人として、この経験は自分のアイデンティティを考える上で多くのことを考えることができました。また、その文脈の中だけでなく、強制収容について学ぶことは、21 世紀に生きる人間として、誰もが公平で公正な社会を実現することの難しさを考え、歴史を振り返りながら、どうすれば実現できるのか立ち止まって考えるという、私にとっても重要な経験でした。」

「私は現在、演劇の授業で、大統領令 9066 号の違憲性を訴えたゴードン・ヒラバヤシの実話を基にした『Hold These Truths』という戯曲に取り組んでいます。このプログラムは、戯曲の登場人物を理解するのに役立っています。」

Section II: Experience with On-site Learning 1. Your experience with On-site learning (Chicago trip & Urbana-Champaign trip)

5 responses

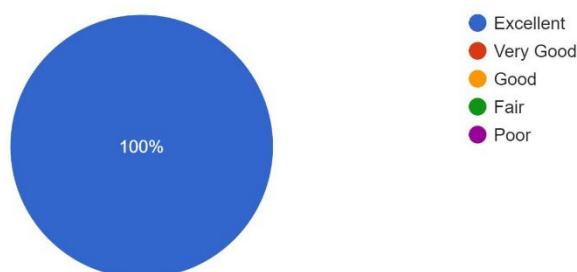


表 8 セクション II-2 現地体験学習（シカゴとアーバナ・シャンペーン）について

Section III: Culminating Project Evaluation 1. Overall evaluation of the culminating project

5 responses

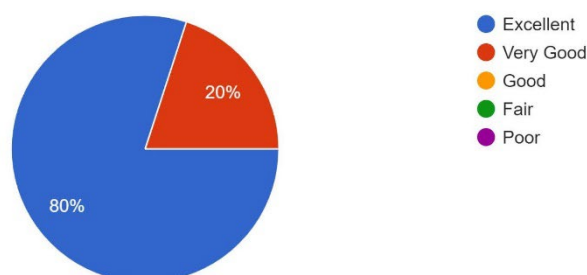


表 9 セクション III-3 集大成プロジェクトの総合評価

Section IV: Overall Program Evaluation 1. Overall Program Satisfaction
5 responses

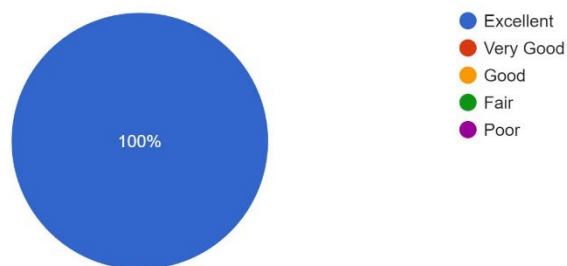


表 10 セクション IV プログラムの総合評価

2.7.2.日系人コミュニティと専門家からの評価：

シカゴの日系人コミュニティと専門家へのポストサーベイでは 15 人中 13 人から回答を得た。以下、コメントをいくつか紹介する。（英語のコメントの日本語訳は拙訳）

セクション II 現地学習 1 私たちとの経験

「ノックス大学の先生と学生たちを受け入れ交流できたことは、私にとっても教会の人々にとっても喜びでした。昨夏の彼らの訪問に関わった私たち全員にとって、素晴らしい思い出になったと思います。」

セクション III 最終プロジェクト評価 1 シカゴ日系人史ウェブサイトコンテンツ (表 11)

「ウェブサイトは私の期待を上回っていました。学生はシカゴの日系アメリカ人コミュニティの多様性の深さと複雑さを確実に理解していました。」

「私自身、戦前のシカゴについて多くの記事をネット上で発表してきましたが、ひとつを除いて見過ごされているのは残念です。私の記事では人口調査なども紹介しており、記事から情報を取り出して調査すれば、もっと充実したページを作れたと思うのですが、シカゴの初期の日系人のセクションが紋切り型の情報だけで終わってしまったのは残念です。」

セクション IV-3. このプログラムを再実施するのを見たいと思うか? (表 12)

「このような取り組みは、歴史を生かし、若い世代に意味のあるものにするのに役立ちます。」

「アメリカにおける日系人の歴史は、非常に多くの面で重要な歴史であります。多くの点で、日系移民は障害や差別に直面してきました。」

「このようなプログラムは、将来また実施されるべきだと思います。シカゴ地域の日系アメリカ人に関する多くの語られていない物語は、もっと広く認知されるべきです。」

「イエスでもあり、ノーでもあります。抜けている部分があるからです。なぜカリフォルニア、オレゴン、ワシントン、アリゾナ南部から日本人と日系アメリカ人だけが強制連行され、強制収容所に入れられたのかという背景情報が抜けています。そして、なぜ 20,000 人がシカゴへの移転を決めたのかも。」

Section III: Culminating Project Evaluation 1. Website Content on the History of Japanese Americans in Chicago
13 responses

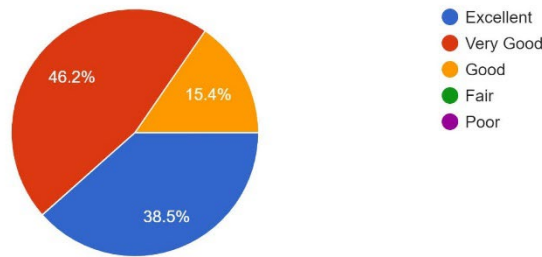


表 11 セクション III 最終プロジェクト評価 1 シカゴ日系人史ウェブサイトコンテンツ

3. Would you like to see this program implemented again?

13 responses

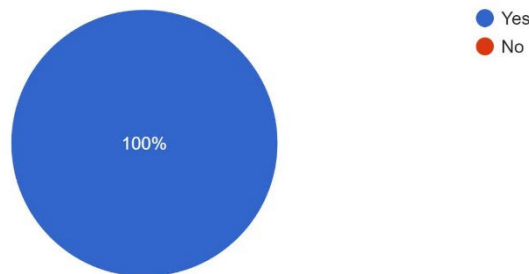


表 12 セクション IV-3. このプログラムを再実施するのを見たいと思うか?

3 考察と将来への提案

この「シカゴの日系人史」プログラムは、多様な学習方法を取り入れ、学際的なアプローチを実現した。フィジカルとデジタルの両面からの没入型体験学習を提供することで、参加者は日系人コミュニティとの深い関わりを通じて、歴史的、文化的背景をより深く理解する機会を得た。また、デジタルスキルの習得とウェブサイトの作成は、地域社会への貢献としてのみならず、参加者自身の学習成果を広く共有する手段となった。

プログラム終了後のアンケートではポジティブなフィードバックが多かったが、貴重な意見も多くあった。学習者のフィードバックからは、自分達のアイデンティティに言及しているコメントも多く見られ、日系人史への理解を深めるとともに、自身や他者への理解を豊かに出来たようだ。また、現在は演劇の授業で大統領令 9066 号の違憲性を訴えたゴードン・ヒラバヤシの実話を基にした戯曲に取り組んでいるというコメントもあった。このように、プログラムで学んだことが学生の視野を広げ、終了後にも影響を与えていることがコメントからも窺えた。学習者の評価からは、フィジカルとデジタルの両面での没入型体験学習について、改善が必要である点がいくつか浮かんた。学習者はウェブサイト作成にプログラム終了後も時間を割く必要があり、結果的に完成には九か月という長い期間がかかった。フィジカルとデジタル両面の没入型体験学習をプログラム内で実現するには、プログラム期間内にウェブサイト作成を終えることが望ましいだろう。それには、四週間では足りなかったもので、少なくとも六週間は必要だと思われる。日系人コミュニティと専門家の評価からは、本プログラム継続への期待が大きいことが窺えた。これは、今

後の再実施への大きな支援となる。しかし、プログラムのコンテンツについては、一般的な日系人史とシカゴの日系人史を四週間で全て網羅しようとして、一部が表面的な学びに終わってしまったことなどへの批判もあったことを重く受け止めたい。また、ウェブサイトのコンテンツに歴史的に重要な部分が抜けているという指摘もあった。コンテンツを精査し、どの部分に重点を置くかなど、吟味する必要があるだろう。

そして、参加者の多様性についても今後検討すべき事項である。アジア研究、日本語プログラムのプロモーションでもあった本プログラムの実施だが、結果として、自分のアイデンティティに興味を持った日本人やアジア系学生にリーチした。様々な分野の日本語に興味がある学生へはあまりリーチしなかったと言える。プロモーションの方法の問題なのか、アピールポイントの問題なのか、今後も慎重に検討しなければならない。

それとともに、本プログラムを日本語教育と繋げ、すでに日本語を受講している学生が参加出来るようにすることも強く検討して行きたい点である。日本語教育へのブリッジ・コースとして効果的な活動を具体的に考えてみた。1) 日本語未修者と日本語学習者が混成チームを作り、お互いに補い合うピアラーニングをすれば、それぞれの強みを生かした学びが出来、それをお互いの刺激とすることが出来るだろう。そして、2) レベルの違う日本語学習者同士も、レベルに応じたタスクを与えることで個別のスキルアップを図り、それぞれの達成感を満たすことが出来る。例えば、初級者は基本的な歴史用語の日本語を学び、中級者は日本語資料を読んだり、日系人へのインタビューも可能だろう。上級者がいれば、参加者が書く記事を日本語に翻訳、ウェブサイトや英日表記にすることで、日本人へのシカゴの日系人史の入口ともなるだろうし、また、日本語学習教材としても活用できる可能性が広がる。

以上の点をまとめると、今後強化すべき点は 1) 現地での没入型体験とウェブサイト作成期間のバランス、2) より効果的なプロモーション戦略と参加者の多様化、3) 日本語学習をより深く統合し、日系人コミュニティとのつながりを促進する、の3点である。

4 おわりに

「シカゴの日系人史」イマージョン・ラーニング・プログラムは、ノックス大学において初めて実施された取り組みであり、多様性と相互理解の重要性を再確認する機会を提供した。このプログラムは、様々な分野の学生に対し、アメリカ国内で日本の文化や歴史を深く体験することを可能にした。また、デジタル技術の活用により、学習成果を地域社会に還元するという試みも行われた。

この経験は、参加者自身のアイデンティティや他者理解に対する深い洞察を促したが、プログラムの設計や実施に際しては、さらなる改善の余地があることが明らかになった。特に、プログラムの期間、参加者の多様性、地域コミュニティとの連携の強化、デジタルスキルを活用した成果物の完成度などが、今後の課題として挙げられる。

今後は、このプログラムをさらに発展させ、より多くの学生が参加しやすい形に改善し、日本語教育との連携を強化することが重要である。また、地域コミュニティとの関わりを深めることで、学生たちがアメリカ内での「日本」を通じて、グローバルな視点と地域社会への貢献を学ぶことができるプログラムを目指したいと考

えている。

本プログラムの取り組みは、コロナ禍における教育の課題に対する一つの解答であり、学際的な学びの可能性を示した。これからも、学生が多様性を理解し、異文化間コミュニケーション能力を身に付けるための教育機会を提供することが、私たち教育者の使命であると改めて認識した。最後に、本プログラムに参加してくれた学生、協力してくれた日系人コミュニティ、そしてサポートしてくれた全ての人々に深く感謝申し上げる。今後もこのような取り組みを通じて、より豊かな学びの場を提供していきたい。

謝辞

本稿は2024年4月に行われた The 30th Central Association of Teachers of Japanese Conference での発表をもとに執筆した。学会準備や運営に尽力された先生方とスタッフの皆様に心からお礼を申し上げたい。

参考文献

近松暢子(2009)「米国におけるコンテンツ・コミュニティベース授業の試み—米国シカゴ日系人史—」,『世界の日本語教育』19, 141-156.

Civil Liberties Act of 1988. Congress Gov.(August 10,1988)
<https://www.congress.gov/bill/100th-congress/house-bill/442/text> (Accessed April 18, 2024)

Executive Order 9066: Resulting in Japanese-American Incarceration (1942). National Archives.
<https://www.archives.gov/milestone-documents/executive-order-9066> (Accessed April 18, 2024)

‘Hate is learned’: Tracing the history of anti-Asian violence in America. PBS News.(April 4, 2021)
<https://www.pbs.org/newshour/show/hate-is-learned-tracing-the-history-of-anti-asian-violence-in-america>
(Accessed April 18, 2024)

Hayes, M., Macaya, M. & Wagner, M.(2021) 8 killed in shootings at Atlanta-area spas.CNN (March 17, 2021).
<https://www.cnn.com/us/live-news/atlanta-area-shootings-03-17-21/index.html> (Accessed April 18, 2024)

Im C., Ruiz, N. , & Tian Z. (2023) 4. Asian Americans and discrimination during the COVID-19 pandemic. Pew Research Center (November 30, 2023)
<https://www.pewresearch.org/2023/11/30/asian-americans-and-discrimination-during-the-covid-19-pandemic/>
(Accessed April 18, 2024)

Japanese American History in Chicago(2024). Knox College.
<https://japaneseamericanchicago.knoxabolitionlab.org/> (Accessed August 14, 2024)

The TEAACH Act. Illinois State Board of Education. (January, 2022)
<https://www.isbe.net/Documents/TEAACH-Act-Fact-Sheet.pdf> (Accessed April 18, 2024)